

2023
3 月号
no.606

支える人を支える 京都の 福祉

『京都の福祉』は福祉関係者に福祉の課題や情報を提供する
「京都府社会福祉協議会」(府社協)が発行する広報誌です



● 今月の「ふくしびと」は吉田真作さん ▼11ページ

● DXで何が変わった? 導入した2つの法人に聞いた ▼8ページ

もえくさ



T.S

「タレントのタモリ氏の言葉「新しい戦前」が話題となっている。ロシアによるウクライナへの戦争をはじめとする世界情勢や、防衛力整備・強化に向けて予算を10兆円規模に倍増させる日本政府の方針が背景にあるだろう。」

筆者は、長年福祉の仕事に従事するなかで、人々の尊厳と幸せは平和な社会の上に成り立っていると強く実感する。国際間の緊張を高める前になすべきことはたくさんあると思う。

「防衛力強化に関する世論調査からは、その強化自体は肯定しつつも防衛費の増額は、多数が反対するというねじれた意識がみられる。重大な社会のあり方は国民自身が決定し同時に主権者としての責任を負うものだ」とすれば、国民の理解が深まっていない証左ではないか。また、長期にわたって公債や借入金に依存する体質に国民が慣れ、政治無関心の「他人事」化が進んでいることに危機感を覚える。

「地域福祉は「住民」が主人公となって福祉のまちづくりに取り組むことにその生命線がある。成熟した民主主義社会の形成に寄与する観点を忘れてはならないと思う。」

重層的支援体制整備事業の推進

重層的支援体制整備事業とは何か

重層的支援体制整備事業は、市町村において、既存の相談支援等の取り組みを活かし、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制を構築するため、

- 相談支援（属性や世代を問わない相談の受け止め、アウトリーチの実施、多機関協働）
- 参加支援（社会生活を円滑に営む上で困難を有する者への社会参加への支援）
- 地域づくりに向けた支援（交流・参加・学びの機会のコーディネート）

を一体的に実施するものです。これらの事業は個々バラバラに機能するのではなく、一体的に展開することで一層の効果が発揮されるものです。

近年、8050問題、虐待、社会的孤立など住民の抱える生活課題・福祉課題はその要因が一つではなく複合的な要素が絡まりあって生み出されている実態があります。世代や属性で区切られた相談受付ではなく、どの相談窓口から入っても適切な支援先につなげること（Ⅱ包括的相談支援）や相談者が社会とのつながりを絶やさないこと（Ⅲ参加支援）、世代や属性を超えて交流できる居場所づくり（Ⅳ地域づくり支援）などがこれらの課題を解決する一歩になります。

支援が届いていない人に届けるアウトリーチ（Ⅱアウトリーチ等を通じた継続的支援）や様々な関係機関が連携して受け止める体制づくり（Ⅲ多機関協働）を市町村全体で取り組むことで、より充実した事業展開を図ることにつながります。また、地域住民が地域の

少子化・高齢化の進行、人口減少社会の到来、地域の衰退さらにはコロナ禍の影響など社会が大きく変化する中で、住民の暮らしの中での困りごとにも複雑化、多様化、深刻化しています。これまでの福祉制度は、高齢・障害・児童等の分野ごとに設けられており、既存の制度の対象になりにくい課題は制度の狭間からこぼれ落ちてしまっていることがあり、分野横断的な支援体制の構築が喫緊の課題で、市町村において包括的支援体制を整備することとされています。

「重層的支援体制整備事業」は、包括的支援体制をさらに具体的に推進するとともに、住民の福祉活動を進めるために令和3年4月に施行されました。

事業推進のための後方支援 ～京都府社協の取り組み～

京都府社協では、令和4年度に京都府より「重層的支援体制構築市町村後方支援事業」の委託を受け、府内の市町村や市町村社協等が協力しながら重層的支援体制整備事業の推進に取り組めるよう支援しています。

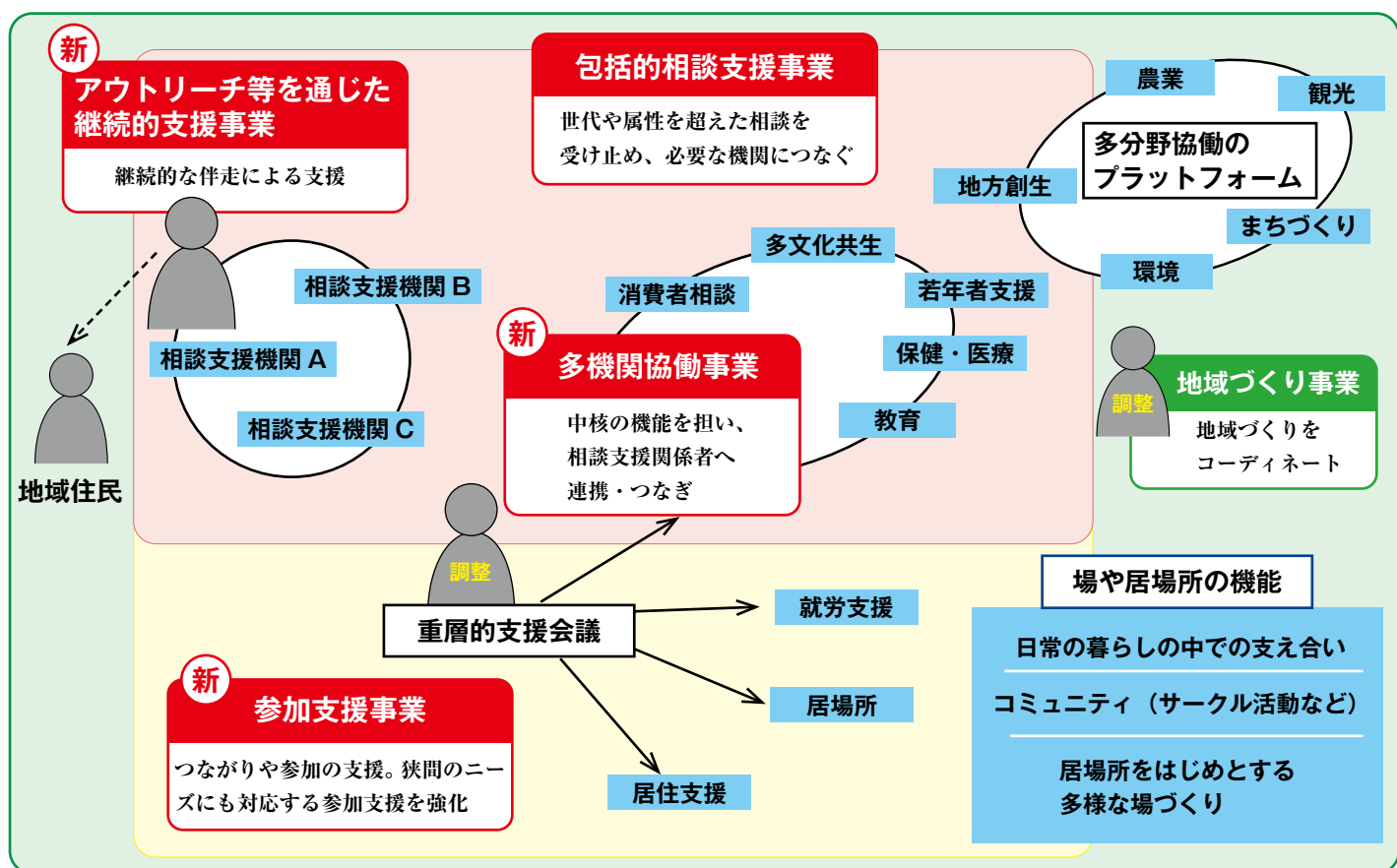
具体的には「重層的支援体制構築アドバイザー派遣事業」、「市町村間情報共有ネットワーク会議」、「重層的支援体制整備事業の推進にかかる情報発信・広報」を実施し、市町村が事業に取り組みイメージを具体化して計画を立てられるよう支援しています。

重層的支援体制構築アドバイザー派



市町村間情報共有ネットワーク会議の様子

重層的支援体制整備事業のイメージ（全体）



遺事業はこれまでに9市町村（福知山市、舞鶴市、亀岡市、長岡京市、京丹後市、木津川市、精華町、南山城村、与謝野町）が活用しています。（予定含む）

また、市町村間情報共有ネットワーク会議は、市町村における重層的な支援体制を構築する意義を確認するため、行政機関職員・社協職員等を対象に、包括的支援体制の構築に向けた制度概要及び先進事例を学ぶ場として開催しました。

第1回ネットワーク会議 ～先進地の取り組み紹介①～

第1回目の会議では、「モデル事業の取り組みの経験から考えた連携体制づくり」をテーマに長野県伊那市から実践報告をいただきました。

長野県伊那市では、「地域共生社会」の実現に向け、平成29年度から包括的支援体制構築のモデル事業に取り組み、令和4年度から重層的支援体制整備事業に取り組んでいます。

地域福祉の向上と市民相互の交流促進を目的として、「地域包括支援センター」、「社会福祉協議会（地域福祉課）」、「子ども相談室」、「公証役場」を一か所にとまとめ、福祉の総合相談を行う拠点として「福祉まちづくりセンター」を令和3年度に設置しました。拠点を一つにしたことで多機関の連携が進み、官民協働の支援体制の検討や

ケース会議ができるようになりました。さらに、福祉センターと市役所との連携が円滑に行えるようICTを活用し、24時間オンラインで連絡が取れる仕組みを構築しました。市役所に来られた市民からの相談にもオンラインで対応でき、効果的にICTを活用しています。

第2回ネットワーク会議 ～先進地の取り組み紹介②～

第2回目の会議では、「重層的支援体制整備実施自治体等における取り組み」について、大阪府大阪狭山市・市社協及び福井県坂井市社協から実践報告をいただきました。

大阪狭山市では、新しいものをつくるのではなく、今あるものを活用、リノベーションしていくことをテーマに、分野別に行ってきた相談支援を一体的に行うこととしました。そして、複合化する支援ニーズに対応するため、令和3年度から重層的支援体制整備事業を市社協に委託するとともに、市役所の関係各部署及び各相談支援機関に「重層的支援担当者」を配置し、担当者間で支援経過の共有及び協働・連携を実施しています。

市社協では、地域づくりこそ社協の本分であるとの位置づけを再確認し、行政との連携を密にして「相談者を真ん中」において、地域で暮らす人が互いに支えあう地域づくりを目指してい

ます。

福井県坂井市社協からは、令和3年度から重層的支援体制整備事業に取り組み、各地区のコミュニティ単位に設置している「まちづくり協議会」を中心に地域づくりを進めていることが報告されました。重層的支援を行政や社協等の関係機関のみで実施するだけでなく、地域住民と協働して行うことで、従来から取り組んできた「住民主体の地域福祉推進」の具現化を図っています。これまでに構築した支援体制



先進地の取り組み報告の様子

を活かし、新たな地域づくりにも取り組んでいます。また事業に取り組むことで、市社協の存在を福祉分野以外の人にも理解してもらえようになりました。そして、多様化する地域課題の解決に向けて、より地域住民の声や思いを政策に反映できるようにして、既存の仕組み（専門性）を活かしつつ、それぞれが役割を少し広げ「のりしろ」を出し合うことで、制度の狭間を埋め、誰も取り残さない地域共生社会の実現を目指しています。

京都府内の取り組み状況 ～長岡京市の取り組み～

長岡京市では、令和4年度から重層的支援体制整備事業への移行準備事業に取り組んでいます。令和4年7月に庁内研修会を開催し、京都府から事業の説明や先進事例の紹介、長岡京市から検討中の重層的支援体制整備事業についての説明があり、地域住民から寄せられている複合的な課題について庁内での課題共有が行われました。

重層的支援体制構築アドバイザーの山下憲昭氏から「全庁的な協力体制を構築していくために、福祉部局以外の協力も得ながら、複合的な課題を各担当が出し合い、課題の共有を行うことで相互の理解を深め、分野別の事業を連動した取り組みにすることが重要」との助言をいただき、重層的支援体制整備事業に取り組んでいく目的や



長岡京市で実施されたプラットフォーム会議の様子

心構えについて再確認する機会となりました。

さらに、長岡京市では複雑化する支援ニーズに対応することを目指し、行政、社協、ひきこもり支援や就労支援等に取り組んでいるNPO法人がプラットフォームを構築し、各々の活動内容の相互理解や地域課題の情報共有を行っています。このプラットフォームでは、専門職だけでなく、地域の多様な活動者の参加が包括的な支援につながっていくという理念を大切にしている。支援者や活動者が日頃感じている課題やそれぞれのノウハウを共有し、自発的な参加支援事業などの取り組み

が生み出せる「場」になることを目指しています。

地域共生社会の実現に向けて

現在、京都府内において重層的な支援体制整備事業の実施に向けた移行準備事業に取り組む市町村は4市町（福知山市、亀岡市、長岡京市、精華町）あり、令和5年度より1市（長岡京市）が本実施を予定しています。

京都府社協が京都府内の市町村を対象に実施した重層的支援体制整備事業に係る調査では、地域共生社会実現に向けた地域福祉課題として、①既存の福祉制度では解決が難しい制度の狭間となっている相談の増加により、単一の相談機関だけでは対応しきれない状況に陥っていること、②地域福祉活動者の高齢化、減少、次世代の担い手の育成・確保、③中山間地域の交通手段等が挙げられていました。

今後、誰もが安心して生活できるまちづくりを進めるために、地域福祉課題の解決に向けた関係機関によるプラットフォームの構築や、暮らしの身近な居場所づくり、見守り活動、担い手の育成等を地域住民の方々とともに作っていくことが重要です。京都府社協は、各地の取り組みや政策動向等を紹介・提供するとともに、府や市町村、市町村社協等の関係機関とともに地域共生社会の実現に取り組んでいきます。

府内全 25 市町村から 参加！

第10回きょうと地域福祉活動実践交流会 「お茶の京都から元気発信」 さあ！コロナ禍から新しい活動へ」を開催

小地域福祉活動の実践者や社会福祉協議会関係者が福祉課題や日頃の地域福祉活動をテーマに交流し、地域の福祉活動をさらに推進することを目的に、令和5年1月21日（土）、精華町において、第10回きょうと地域福祉活動実践交流会を京都市市町村社会福祉協議会連合会等と共同で開催しました。



京都府内全ての市町村社協とオンラインで繋ぎ、見守り活動やサロン活動等に取り組む活動者約500人が集いました。

講師のご近所福祉クリエイターの酒井保氏から、「コロナ禍において、今、地域福祉活動に求められていること」をテーマに、コロナ禍でも地域福祉活動をするための大切さを講演いただきました。また山城南地域で活動する山城小助け隊アッピー（木津川市）、株式会社花駒（精華町）、わかみなチャンネル（和束町・笠置町・南山城村）が、コロナ禍においても実践された活動など新たな地域福祉活動を創造している実践報告が行われました。

その後、各サテライト会場ごとに講演、実践報告についての感想を出し合い、さらに各会場との意見交換をおとして、地域福祉活動による人や社会とのつながりが地域の健康づくりにも関係している



ことや、他の活動団体と情報交換を行い、これからの活動でチャレンジしてみたいことを語り合いました。

最後に、重層的支援体制構築アドバイザーの山下憲昭氏から、地域福祉に大切な地域づくりのポイントをお話いただき、身近な地域福祉活動が重層的支援体制の基盤であることの理解を深める機会にもなりました。

府社協メンバーが実際に体験してきました！

ロームシアター京都『きこえなかったあの日』上映会&感想シェア
災害の困難の渦中にいた耳の聞こえない人たちの記録映画上映と当事者を交えた感想シェア。

災害やコロナ禍という出来事が、聞こえない人に与える影響は、想像以上に大きいものでした。改めて、“被災者”という枠組が、一人一人の生きづらさや可能性を見えにくくしていると考えさせられました。

感想シェアの時間では、「隣の人がこんな風に感じたんだ」という驚きや発見があり、自分が知らないことやわかったつもりのことが多いと気付かされました。一歩踏み出し対話することで、互いの理解を深めていくことの大切さを体感しました。小さな気付きがあれば、人は、社会は、変わる。そんな希望を感じる時間でした。(北尾)

京都府立図書館での「想像する文字展」

文字を題材にした障害をもつ作家9名による展覧会。(龍谷大学ユネスソーシャルビジネスリサーチセンター主催)

多種多様な作品一つ一つをじっくり見ると、たくさんの言葉やストーリー。好きな言葉なのかな?とか、楽しいことがあったのかな?など、描かれた文字からいろんなことを想像しながら楽しみました。



図書館に来た人が何気なくアートを楽しめる空間になっていて、身近なところでアートに触れられる機会がもっと広がってほしいと思いました。(浅見)

京都国立近代美術館「筆談鑑賞会 かくみろつながる」

作品の印象や浮かんだ疑問について、大きな模造紙に文字や絵を「かく」ことで伝え合う筆談鑑賞会。



自分の感想に別の人の感想が書き足され、それにまた質問や共感のコメントがつき…。参加者とリアルタイムにつながる感覚がありました。

筆談という方法を取ったことで、手話が出来なくても、

耳が聞こえなくても、お互いが「そのまま」コミュニケーションを取ることができる空間でした。

私たち府社協からもそんな空間や出合いの機会を創出していきたいです。(濱本)



「京都とっておきの芸術祭」

今年で28回目の障害の有無にかかわらず交流の場として親しまれてきた公募展。絵画、陶芸、写真、書、俳句、川柳、諸工芸といった部門の作品がみやこめっせに集まった。



「孔雀」。知事賞に輝いたこの絵は鮮やかな色合いです。写真の部はどれもみな素敵で自分もその撮影場所に一緒にいるかのような錯覚を覚えました。

作者が誰であっても出来上がったアートが自分の感性に響くものであれば、安らぎや癒し、ひらめきや活力を生み出す源泉になります。障害の有無にかかわらず、生活を豊かにする取り組みや場面をもっと創造していきたいと思いました。(神戸)



芸術祭をととして、「障害」の枠を超え、同じ社会で生活する生活者としてつながり、尊重し合える機会でした。どの作品も、個性豊かで、一つ一つの作品が、自分らしさを表現されており感銘を受けました。

芸術文化を京都から発信できた良い機会でした。

私たちも芸術文化から地域共生社会の実現のためにできることを考えていきたいと思います。(黒田)



京都国立近代美術館『無視覚流』で楽しむ!京風まちあるき

視覚を使わずにアートを全身で感じるワークショップ。

普段、見るものだと思いついていたアート。不安な気持ちでワークショップに参加しましたが、「触る」「聴く」「つながる」感覚を研ぎ澄まし、新しい芸術の楽しみ方を知りました。

「まちまちな人が歩くから『まちあるき』と話す全盲の講師の方もとても素敵で、近い将来に芸術の楽しみ方はもちろん、「社会のスタンダードが変わっていく」と確信。そこに府社協がどう関わっていけるのか、私たちの感性をアップデートしていく重要性を感じました。(鈴木)



障害のある人もない人も楽しめる展示や体験

CONNECT ⇄ が開催されました!

共生社会の実現のために



いろんな人と作品を鑑賞すると自分で気づけないことに気づけるよさがあります。

京都国立近代美術館 学芸課
研究員 松山沙樹さん



2022年12月に京都・岡崎公園の美術館、劇場、図書館、動物園などで「障害のある人もない人も、多様性や共生社会についてともに考える18日間」と題して開催された「CONNECT」(コネクト)。本会が実行委員会に参画する「京都とっておきの芸術祭」も含めて様々なプログラムが実施されました。府社協の掲げる「多様性を認め合い、思いやりを大切にすること」のヒントを求めて、府社協職員もプログラムを体験・鑑賞し、誰も取り残さない共生社会の実現のために思考を深めてきました。

京都でのCONNECTは3回目の開催です。2020年の新型コロナウイルスが初めて流行した年に始まり、実は、CONNECTには前身があります。東京・六本木の国立新美術館で、2016年〜19年に4回にわたって文化庁が主催して開催された、共生社会や文化の多様性についての展覧会「ここから展」です。文化庁の京都移転に伴い、「ぜひ関西で一緒に」という提案を、文化庁から受けました。「障害・表現・共生を考える」という趣旨を引き継ぎ、京都らしく捉え直したのがこのCONNECTです。京都の特徴のひとつに、岡崎公園一

帯に文化施設が集まっていることがあります。公園内の文化施設に声をかけ、おのおのがワークショップや展示を考案。3回目の今年は、7つの施設の特徴が生きた17のプログラムが開催されました。京都国立近代美術館が行った4つのプログラムのひとつが、私が担当した「無視覚流」で楽しむ!京風まちあるきです。参加者は2人1組になり、アイマスクをして視覚を使わずに文化やアートを感じながら岡崎エリアを歩きました。

さらに、見えない人に「その説明ではわからない」と言われたならば、感じたことをより言語化する必要が出てきます。それは、鑑賞の精度を上げることにもつながります。私は西洋美術史を学んだのちに、美術館での教育普及を専門に研究しています。障害のある人となない人といった背景が違う人たちが一緒に作品鑑賞することで、美術館での経験が豊かになる。そうしたコミュニケーションで、人と人がつながることができるCONNECTには、大きな可能性を感じています。

導入した2つの法人に聞いた / DXで何が変わった？

DX（デジタルトランスフォーメーション）とは、

デジタル技術によって企業・法人の提供する製品やサービス、ビジネスモデルそのものの変革を起こす、

「質的变化」を目的とするものです。国は支援の質の向上や業務負担軽減、働きやすい職場づくりのため福祉分野のDX化

を重要視しており、京都府でも福祉分野の施設にデジタル化に対する助成事業を行うなどして、DX化を進めています。

そこで、京都府内の2施設に**導入しようと思ったきっかけ**、**導入後の変化**について伺いました。

スマホアプリ型インカム Buddycom 1台あたり年間1万3,200円

Buddycom（バディコム）はスマホやタブレットにダウンロードすることで、IP無線機能を使うことができるアプリです。無線機のように一斉に通話ができる他、映像や画像なども共有ができます。



トランシーバー型インカムからスマホアプリ型インカムに変更しました。日常的に使用するスマホを導入することで、デジタル機器が苦手な職員にも馴染み、DXの足掛かりになるのではないかと狙いもありました。

導入後の変化

- ・音声情報以外にも、リアルタイムで写真を共有できるため、情報がより理解しやすくなった。また、記録の質の向上にもつながった。
- ・チャット機能があり、病院や電車などで音声でのやりとりが憚られる場面でも情報共有ができるようになった。
- ・全職員へ一斉に共有するだけでなく、個別でのやりとりが可能のため、シーンに合わせて選択することができ、情報共有を密に行うことができるようになった。

導入しようと思ったきっかけ
トランシーバー型インカムでは音声情報のみのやりとりしかできなかった。

南山城学園 紡 村地正浩 施設長からのひとこと

DXの導入はあくまで手段です。その結果として、職員が働きやすい環境となり、利用者様の暮らしの質が向上することが大切だと考えます。次年度はタブレットを導入し記録業務の省力化を図り、利用者様と関わる時間を増やしていけたらと考えています。



床走行式移動リフト 1式 200万円



据置型リフトではないため、ベッドから車いすだけでなく、トイレ、風呂への移動、入浴の際にも使えます。

導入後の変化

- ・転倒リスクが低くなることで、ご入居者や職員の精神的・身体的不安が軽減された。
- ・全職員が対象者に対応できるようになり、迅速にサービスを提供できるとともに、職員の業務の標準化ができた。

導入しようと思ったきっかけ

二人介護及び介助方法の統一化が困難。（ご入居者への負担）
職員と利用者の体格の差から、乗を担当する職員が限られることがあった。

導入しようと思ったきっかけ

交代勤務の際に情報の引き継ぎがうまくいかない場合や回覧物の回覧状況によって、職員間に情報の差があった。

導入後の変化

- ・グループピングができるので、必要な職員に必要な情報がすぐに共有できる。
- ・回覧物がどこにあるのかを探す必要がなく、誰が見たか分かる。
- ・個人携帯（LINE）の業務的な使用との差別化で、個人情報漏洩の防止等セキュリティ対策になる。（管理権限設定や利用制限、二元管理、退職者対応など）
- ・チャット機能で職員間のコミュニケーションが密になった。（タイマリ）
- ・ペーパーレスで業務効率、新型コロナウイルス禍での会議やミーティング及び各委員会活動も継続可能。

情報共有システム LINE WORKS 100アカウントまで無料

パソコンやスマホ、タブレットにアプリを入れ、アプリ内のカレンダーやチャット機能、掲示板を使い、全体やグループに情報や予定を共有したり、職員間のコミュニケーションを取るもの。全職員がプライベートでLINEを既に利用しているため、導入に抵抗がなく利用方法も簡易。職員のワークライフバランスを守るためルールを決めて運用。



さらに

システムエンジニアの採用

システムは導入がゴールではありません。既存の勤怠ソフトや介護記録ソフト等、使いこなしたり根付かせたりするために、システムエンジニアを採用しました。既存のパソコン、サーバー、コピー機、カメラ等々今まで使いこなせなかった機能があり、紙の削減や排出トレーから自分の資料を探す時間の削減などにつながりました。現場が何を求めているかが分かると、どんなシステム化していいかわかります。

做裏会 特別養護老人ホームあゆみ 萩原理 施設長からのひとこと

今までの世代はがむしゃらに働いてそれが当たり前になっていました。それを見ている次の世代は「あななりたくない」と職を離れていってしまいます。これからの時代はワークライフバランスを整えることも大切です。支援に対する思いは変えず、手段については柔軟に変化させていきたいです。



令和4年度補助金情報

令和4年度「京都府介護ロボット等導入支援事業」

…介護ロボット及びICT機器の導入に係る費用に対する補助金（対象：京都府内の介護サービス事業所）

令和4年度「中小企業デジタル化推進事業」

…専門家を派遣し、分析したそれぞれの課題解決に向けたITツールの選定から導入までを支援。それに対する補助金（対象：京都市内）

京都府障害福祉分野のロボット等導入支援事業

…介護ロボット等の導入を支援（対象：障害者支援施設事業者等）

※本年度はすべて申請期間終了しています。
詳細は、京都府のホームページをご覧ください。
市町村によっては右記とは別に助成金を設けているところもあります。

DXをテーマとした 研修を実施！



「福祉職場でのDX活用も学べる！業務改善セミナー」と題し、業務改善・DXをテーマとした研修を今年度初めて実施しました。
（株）NTTデータ経営研究所アソシエイト・パートナーの吉田俊之氏を講師に迎え、業務改善を行う目的や業務改善を行う際の留意点などを学ぶ機会になりました。今回、学んだ内容の一部をご紹介します。

まず、業務改善活動を行う目的について、福祉業界における生産性の向上とは人員削減などではなく、「一人でも多くの利用者に質の高いケアを届ける」ことであるとのお話がありました。また、質の高いケアを届けるためには、職員が落ち着いて考えられる職場環境が大切であり、そのような環境を実現するために業務改善活動に取り組む必要があるとのお話もありました。

次に、業務改善活動を行う際の留意点について、「チームアプローチ」という単語が頻りに登場しました。より質の高いケアを届けることを目指して、まずは職員で思いを出し合うことから始めてみませんか。

導入しようと思ったきっかけ

アラートが反応した場合どんな状況か分からないため、毎回職員が駆けつけ、ストレスや不安・負担の要因になっていた。

導入後の変化

・以前はどんな状況でアラートが鳴っているかわからなかったが、シルエット映像によりどんな状況なのか分かるため、精神的圧迫が軽減されることが期待できる。

・シルエット動画を確認できるため、万一事故が起こっても事故原因の把握・対策が行いやすく、再発防止が期待できる。

見守り機器 Neos + Care 5台 145万円



Neos+Care（ネオスケア）は、センサーカメラにより利用者のシルエット映像を見ることができ、設定した危険体位になるとアラートが鳴るというものです。

※端座位や入退室を検知するとアラートが鳴るものから、シルエット映像が確認でき、設定した危険体位になるとアラートが鳴るものに変更しました。

※端座位：いすやベッドなどの端に足をおろして座った姿勢



法人の垣根を越えて、
介護業界の魅力を
伝えていきたい

特別養護老人ホーム木津芳梅園 介護福祉士 ● 吉田 真作さん

◆この職場を選んだ決め手は？

たまたま偶然のご縁が重なり、こちらにお世話になっています。出会いに感謝です。

◆職場のいいところ

年齢層が幅広いので、いろいろな価値観に触れられて、刺激を受けています。職員同士の仲も良く、仕事終わりにテニスなどをして一緒に体を動かしています。

◆休日の過ごし方

インドアもアウトドアも両方好きで、最近ハマっているキャンプに行って、漫画を読んでいることもあります（笑）。

【施設名】(福) 芳梅会 木津芳梅園
【場所】京都府木津川市鹿背山東大池 4-1
【URL】<http://www.houbaikai.com/>
【TEL】0774-72-8246 【FAX】0774-72-0153

木津芳梅園で働いて6年目を迎える吉田真作さんは、大学時代に教員免許を取得した経歴の持ち主です。福祉の道に進んだきっかけを訊ねてみると……。

「正直なところ、最初は『とりあえずの繋ぎで』という意識だったんです。でも、実際に働いてみたら、利用者様が過剰にやさしくサポートをする介護の仕事が自分にすごく合っていて、思いの外めり込んだんです。今では天職だと思っています」

利用者が安心して快適な生活を過ごせるために、寄り添ったサポートをするのはもちろん、吉田さんはレクリエーションにも力を入れています。

「職員持ち回りで担当するのですが、私は『他の人とは被らず、斬新なことで楽しんでもらう』ことを大切にしています。前回のお誕生日会で開催したたい焼きパーティーは、見事に大盛況。普段はあまり食べない利用者様も、たくさん食べてくれました（笑）。普段とは違った表情や笑顔が見られると、やりがいを感じます」

指導員として、後輩の育成にも力を注ぐ吉田さん。「介護業界は人材不足が叫ばれています。芳梅会だけに留まらず、法人の垣根を越えて、いろいろな事業所を巻き込んで、介護業界の魅力を伝えていきたいですね」

地域ぐるみで子どもの居場所づくり！ 画期的な情報交換イベント開催！



令和4年度 きょうとこどもの城づくりフォーラム



2023年1月7日@ガレリア亀岡



藤の木子ども食堂
山内忠敏代表理事

1月7日、「きょうとこどもの城づくりフォーラム」を亀岡市余部町のガレリア亀岡で開催し、子どもの居場所づくりに取り組む団体や住民、民生児童委員協議会、行政、市町村社協等から約100人が集まり活動報告に耳を傾けました。

開会挨拶では主催の京都府社会福祉協議会の中井常務理事が、コロナ禍が長期化し子どもの貧困と孤立が深刻化する現在こそ、府社協が目指す地域共生社会の実現に向かい、子ども達が夢や希望を描ける地域づくりに取り組むことの重要性について語りました。

基調講演で、伏見区の「藤の木子ども食堂」の山内忠敏代表理事は、夕方から夜に外に居る子ども達への心配から始まった市営住宅の空戸を活用した「藤の木セカンドハウス」の活動を紹介。子ども・若者が様々な資源に出会うことのできる拠点として、小学生対象の子ども食堂や中高生対象の若者食堂を定期的に開催し、今後は空戸が多い棟を福祉の棟にする構想を進行していると報告がありました。

「京都府まなび・生活アドバイザー」「京都府教育委員会スクールソーシャルワーカー」



京都府まなび・生活アドバイザー
京都府教育委員会スクールソーシャルワーカー

西村木綿子氏

ワーカー」の西村木綿子氏は、学校現場だからこそ見える子どもの実態について話し、生きづらさのなかにいる子ども達の尊厳と命を、地域を巻き込んで守る実践について報告しました。

続く実践報告では、南丹地域3団体から各々の地域性や個性を活かした活動について紹介され、報告者の熱い思いと懸命な実践に会場には深い共感が広がりました。

亀岡市の「NPO亀岡人権交流センター」の杜恵美子理事長は、地域の暮らしに寄り添い、地域のあらゆる対象者の居場所機能を担ってきた活動を紹介、全ての大人が社会の親になり、全ての社会の子を守る必要性を呼びかけました。

南丹市の「みんなのTERAKOYA おいがわ」の國府美紀代表は、不登校・ひきこもりの当事者及び家族の支援から始まった活動を紹介し、自然豊かな地域資源を活かし、全ての若者が夢や希望を叶える地域づくりを目指したいと目標を掲げました。

京丹波町の「たんぼ広場」の稲葉瑠美代表は、100人を超えるグループプラ



▲ 討論会では意見が飛び交った。

インを活用し、コロナ禍でも励まし合って子どもと親の孤立を防いできた事例を紹介しました。

2市1町の社協職員からもコメントが寄せられ、地域で子どもの居場所づくりを実践する団体や地域住民を地元の社協がどのようにつないでいくのか、支えていくのかなど社協の重要な役割について浮き彫りになりました。

5人の登壇者全ての活動に共通する目的は、「地域ぐるみで主役の子どもを守る担い手を広げること」ですが、その視点や方法は様々であり団体の数だけ存在しています。今回のフォーラムでは、互いの実践を知り、異なる立場からの支援方法を理解し、横のつながりを深めることの重要性を確認する貴重な機会となりました。

TOPICS

日本青年会議所京都会議の 防災セミナーで講演



令和5年1月20日、公益社団法人日本青年会議所会員2万人が集う京都会議が京都国際会館で開催され、強くしなやかな国土創造委員会の防災セミナーにおいて、京都府社協の中井敏宏常務理事（京都府災害ボランティアセンター代

表）が「災害にも強いまちづくりを目指して」をテーマに講演を行いました。

講演では、京都府災害ボランティアセンターの紹介・活動内容、災害時における広域支援の役割、現場で求められる支援内容と課題、災害対策とまちづくり、日常の備え、日本青年会議所の皆さんと働きたい点などについて発信しました。

その後、日本青年会議所の強くしなやかな国土創造委員会の河野委員長、京都市消防局の目片自主防災推進課長と中井常務などによるパネルディスカッションがあり、活発な意見交換が行われました。今後も、京都府災害ボランティアセンターでは、「備えよ常に」を合言葉に、様々な団体や企業とつながりを深めながら、災害にも強い地域づくりに取り組んでいきます。

京都府社会福祉協議会からのお知らせ

知らないと後で恥ずかしい？ 社会人としての基本の接遇研修

「こんなこと今更聞くのは恥ずかしい…」そうになってしまう前に社会人としてのビジネスマナーを基礎から学びましょう。

日時 1 コース：4月21日（金）9：50～12：50
2 コース：4月21日（金）13：50～16：30

会場 1 コース：Zoom オンライン
2 コース：京都教育文化センター（京都市左京区聖護院川原町 4-13）

講師 足立 明美氏（一般社団法人 KYOEN）

費用 会員 3,000 円 非会員 6,000 円

問合せ先 京都府福祉人材・研修センター TEL：075-252-6296

京都府社協 HP
講座・研修・イベント
情報一覧



会員・賛助会員への加入については**本会総務課**
(075) 252-6291 までお問合せください。

●本会へのご意見等は、下記 URL の「お問合せフォーム」を通じてお寄せください。

<https://www.kyoshakyo.or.jp>

京都府社協

検索



© 中央共同募金会

本紙は、共同募金の配分金によってつくられています。

福祉事業を始めるなら

賠償責任保険は必須です！

福祉事業者総合補償制度
「まごころワイド」をおすすめします。

充実の賠償責任補償制度、
安価な傷害見舞金補償制度など
必要なプランを組み合わせてください。

福祉専門チームによる安心の事故対応、京都市社会福祉協議会、
京都府社会福祉協議会が提供する福祉の現場に合った内容です。

詳しい補償内容はこちらまで

福祉の保険「まごころワイド」取扱代理店

京都の総合
保険代理店 **SRM 株式会社 エスアールエム**

専用TEL **075-255-0883**

福祉の保険
ホームページ <https://srm.moushikomi.jp>

引受保険会社：三井住友海上火災保険株式会社

この広告は保険の特徴を説明したものです。
詳しくは商品パンフレットをご覧ください。

版1-10-1111

ボランティア活動には「ボランティア保険」
イベントを開催するときは「福祉行事保険」も併せてご利用ください。